

# 松戸市社会教育委員会議会議録

令和5年度第1回

## 令和5年度第1回 松戸市社会教育委員会議

○令和5年7月12日（水曜日）

○出席委員

長江委員長 奈賀副委員長 大野委員 安達委員 米原委員 大成委員 小林委員

○欠席委員

阿部委員、坂委員、千石委員

○社会教育関係団体

松戸市少年少女発明クラブ 仙田事務局

松戸市スカウト連絡協議会 古山会長、池田副会長

○市側出席者

伊藤教育長 藤谷生涯学習部長 小林生涯学習部審議監

三根審議監兼教育総務課長 秋田参事監兼教育政策研究課長

臼井社会教育課長 関根文化財保存活用課長

安部スポーツ課長 大竹図書館長

井之浦経済振興部審議監 綾文化スポーツ振興担当室長

東海林文化スポーツ振興担当室主幹

社会教育課（齋藤（雅） 杉本 岩間）

○次第

### 1 報告

（1）文化スポーツ行政の在り方検討について

（2）松戸市文化財保存活用地域計画について

### 2 議事

（1）社会教育関係団体に対する補助金及び交付団体との意見交換について

・松戸市少年少女発明クラブ

・松戸市スカウト連絡協議会

### 3 その他

---

**長江委員長** それでは、本日の会議は、松戸市情報公開条例に基づき公開の対象となっております。本会議を公開としてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**長江委員長** それでは、傍聴人の状況につきまして、事務局よりご報告をお願いいたします。

**事務局** 本日の社会教育委員会に、2名の方から傍聴の申出がありました。

**長江委員長** はい、わかりました。

傍聴を承認いたしますので、傍聴人に入室をお願いいたします。

(傍聴人入室)

**長江委員長** では、議事に入る前に、今回の議事録の署名につきましては、米原委員と小林委員にお願いしたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

---

#### ◎文化スポーツ行政の在り方の検討について

**長江委員長** それでは、次第に沿いまして進行をさせていただきます。

まず第1番目に、本日は報告が2つと議事が1つでございます。

報告は、1つ目が「文化スポーツ行政の在り方の検討について」、2つ目が「松戸市文化財保存活用地域計画について」でございます。議事は、「社会教育関係団体に対する補助金及び交付団体との意見交換について」であります。

それでは早速でございますが、報告(1)文化スポーツ行政の在り方の検討について、にぎわい創造課文化スポーツ振興担当室長より説明をよろしくをお願いいたします。

**文化スポーツ振興担当室長** それでは、改めまして文化スポーツ振興担当室長の綾と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

お手元の報告資料3「文化スポーツ行政に関する在り方の検討について」をご覧ください。

6月21日に開催された総合教育会議において、松戸市として、文化スポーツ行政における目指す方向性や、それを受けた新たな組織の検討も視野に、議論の土台となる本市の考え方をお示しし、教育委員の皆様と具体的な在り方の検討をスタートいたしましたので、この場をお借りして報告させていただきます。

それでは、総合教育会議においてお示した本市の文化スポーツ行政に対する考え方を、

資料に沿って説明させていただきます。

はじめに、「1 検討目的と概要」でございます。

文化スポーツ施策については、松戸市総合計画の基本目標に「子育て・教育・文化を軸としたブランドづくり」を掲げるとともに、松戸市教育大綱の柱に「文化とスポーツで松戸の魅力・価値を高めます」が掲げられており、市の重要施策として事業を推進してまいりました。

社会課題が複雑化する中で、文化スポーツ施策は、これまでの文教政策に加え、にぎわい創造、観光、まちづくり、国際交流、健康福祉等、市長部局が実施している様々な分野と連携し、総合的に推進していくことで、社会課題の解決や市の施策全体への相乗効果が期待できると考えております。

次に、「2 検討の方向性」でございます。

資料左側の目指す方向性（案）について、文化スポーツを通じて、松戸市の魅力・価値を高め、様々な施策との相乗効果を創出していくためのたたき案として、「市民の文化・スポーツ活動の充実」「文化・スポーツ施設の整備充実」「文化・スポーツを通じたにぎわい創造」「文化・スポーツを通じた多文化共生の推進」の4つを提案させていただいております。

文化・スポーツ活動の基盤となる市民活動については、青少年を中心に個人や団体の活動と発表の場を提供していくとともに、トップアスリートやアーティストなど質の高い文化芸術に触れる機会の創出や、スポーツに親しむ地域の環境づくりを進めていく必要があります。また、文化財を活用したイベントの実施やプロスポーツチームの誘致により、にぎわい創出、地域活性化につなげていきたいと考えております。

様々な文化・スポーツの事業を実施していくためには、その基盤となる施設整備を一体的に進める必要があります。本市では、文化施設、スポーツ施設共に老朽化が進み、更新が求められております。子ども・若者・子育て世代へ魅力ある環境を整備していくとともに、商業・娯楽・福祉、災害時の避難所機能等、機能を多様化した複合型施設の検討が求められております。施設の建設・運営に当たっては、まちづくり部門と連携した市内候補地の選定や関係計画への落とし込み、財政負担の軽減のほか、収益性を確保した運営など、民間活力の積極的な導入が必要となると考えております。

その一方で、資料の右側にあります文化スポーツ行政における現在の課題例を2点掲載しております。

1点目は、持続可能な活動推進に向けた体制の構築でございます。

市民活動を継続的に実施していくため、文化スポーツ団体を含む社会教育団体、市民活動団体については、相互連携や一元管理などが必要になってくると考えております。施設の運営管理については、民間事業者のノウハウを活用するだけでなく、(公財)松戸市文化振興財団や(公財)松戸市国際交流協会などの外郭団体と、(一社)松戸市観光協会のような関係団体も含めた、今後の事業展開の在り方の検討も必要になってくると考えております。部活動の地域移行につきましても、多様な主体が参加しやすい事業の構築が必要となります。

2点目の文化スポーツ施設の整備については、目指す方向性(案)にて説明させていただきましたので、ここでの説明は割愛させていただきます。

最後に、資料の中央の新たな組織のイメージ(案)でございます。

市の目指す方向性を推進していくための組織として市長部局に、仮称でございますが「にぎわい文化スポーツ部」を設置し、文化、スポーツ、にぎわい創造、多文化共生の4つを政策の柱として、事業展開していくことを考えております。

事業展開のイメージでございますが、経済振興部内のにぎわい創出につながるイベントを実施するにぎわい創造課、商業文化を中心とした文化事業と、プロスポーツチームや企業と連携したスポーツ事業を実施している文化スポーツ振興担当室、国際交流、多文化共生を推進する国際推進課、教育委員会スポーツ課で実施するスポーツ事業、社会教育課で実施する市民文化を中心とした文化事業について、これらを一体的に展開するというものです。

文化スポーツ施策の推進体制と目指す方向性を明確にしていくことで、他の部局、経済振興、まちづくり、健康推進、市民協働など、連携事業の展開もしやすくなるものと考えております。

また、組織のイメージに関係する国の動きでございます。平成27年に、文部科学省の外局としてスポーツ庁を創設、平成29年の文化芸術振興基本法の改正を受けて、翌平成30年には文化庁が組織改編を実施しております。スポーツ、文化それぞれが一体的に事業を展開しております。

千葉県においては、令和4年度から、学校体育を除くスポーツ事業と文化財保護を除く文化事業を、教育庁から知事部局へ移管しております。全国的に見ても、中核市62市のうち、文化事業は5割以上の32市が、スポーツ事業は約7割の43市が、教育委員会から市長部局に移管し、幅広く事業を展開しております。本市におきましても、国・県の組織体制を勘案した中で、それに合わせていくことで効果的な施策を推進していくため、今回、総合教育会議に付議し、提案させていただいたものです。

今後につきましては、教育委員の皆様と目指す方向性や、方向性に基づいた組織体制について意見交換を進めてまいります。その中で、社会教育委員の皆様のご意見を伺う機会があるかもしれません。その際はご協力くださいますようお願い申し上げます。

説明は以上です。

**長江委員長** 説明ありがとうございました。

**生涯学習部長** 委員長、私から補足をさせていただきます。

**長江委員長** よろしく申し上げます。

**生涯学習部長** 若干繰り返しになる部分ではありますが、改めまして、この第1回の総合教育会議、6月21日に開催されたものでございまして、背景と今後の進め方を改めてご説明申し上げますと、昨年度の総合教育会議の中で、総合教育会議の議長である本郷谷市長から、様々な面で文化スポーツ行政に関して検討をしていきたいという趣旨の発言がございまして、それに基づき、今年度第1回目の総合会議において、まずは文化スポーツ行政に関する在り方の検討について議論をスタートさせていただきたいということで、総合教育会議委員、教育長をはじめ教育委員の皆様にご説明があったところでございます。

したがいまして、こちらの資料の検討の方向性あるいは組織のイメージ、全て案でございまして、これから総合教育会議の中で、教育委員そして市長、あるいは市長部局との協議の中で様々な検討をしていくものでございます。

社会教育委員会会議におかれましては、まず、既に公表されているものでございますので、内容をお知りいただき、本日につきましてはご意見とかご質問とかあろうかと思いますが、大変恐縮ですが、会議終了後のメール等で頂戴できればと考えてございます。

実際のこの検討の議論につきましては、教育委員の方々と市長部局、事務局入りまして、これから検討してまいるものでございますので、社会教育委員の皆様のご意見あるいはご質問も、この会議や別の場面でお聞きしながら対応してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**長江委員長** ありがとうございます。

それでは、皆様からご質問やご意見がありましたらメールでということでございますので、よろしくお願いいたします。

---

◎松戸市文化財保存活用地域計画について

**長江委員長** それでは、次の報告事項に進みたいというふうに思います。

2番目の報告は、松戸市文化財保存活用地域計画につきまして、文化財保存活用課長からご説明いただきたいと幸いです。よろしく願いいたします。

**文化財保存活用課長** 文化財保存活用課の関根でございます。

松戸市文化財保存活用地域計画についてご報告をさせていただきます。

計画の概要につきましては、3月2日のこの会議にてご説明させていただいたところですが、その後の動きといたしましては、パブリックコメントでのご意見などを反映させ、文化財審議会をはじめ教育委員会会議や議会等へ報告し、承認をいただきました後、完成した計画書を文化庁に提出いたしました。本年度に入りましてからは、文化庁からの指示によりまして若干の手直しを加え、現在は、今月中の文化庁長官による認定の通知を待っているところでございます。

本日は、現時点での最新版である計画書とその概要などの資料をお手元に配付させていただきましたが、計画期間は第2次松戸市社会教育計画と同様に、令和5年度から12年度までの8年間となっております。

計画書の3ページご覧いただきますと、計画の位置づけとして、松戸市社会教育計画が上位計画に位置づけられていることがお分かりになるかと存じます。

計画書につきまして、分量が膨大ですので後ほどご覧いただきたくと思いますが、本日はA3の1枚の資料、「課題－方針－取組」対照表をご覧いただきながら、計画初年度である令和5年度における取組を幾つか紹介させていただきたいと存じます。

それではまず、この対照表の見方でございますが、一番左にはこの計画の目指す姿である基本理念を記載してございます。その右には、松戸市の文化財を取り巻く現状から見た課題を4つのカテゴリーに分類し、お示ししています。

さらにその右には、4つの課題を解決するための基本方針と、それに付随して15の基本的な施策を設定しております。そして、これらの基本的な施策を推進していくために、表の右半分になりますが、保存と活用に関する取組を記載しております。

保存と活用に関する取組を左から順に申し上げますと、38の具体的な取組、右にいきまして取組の概要、その取組を担う主体を行政から市民までをお示しし、一番右側には事業計画

期間として、8年間の計画期間を2年刻みに分割し、網掛けで表しています。この網掛けの違いでございますが、薄い網掛けは取組の準備を行う年度、濃い網掛けは実際に取組を行う年度を表しております。

続きまして、この表に基づきまして、計画初年度である令和5年度の取組を幾つか紹介させていただきます。

まず、文化財保存活用課の本課は、取組の9番に関連し、指定文化財候補の台帳作成に着手いたします。現在、次期指定候補の文化財は市内に131件ございますが、これを管理するリストの内容が不十分なため、所在地や概要、写真など記載の内容の充実を図り、台帳を整理することによって、今後の指定文化財の新たな指定に向けた選定に役立ててまいります。

次に、取組の10に関連し、文化財包蔵地の照会データ検索システムの導入に向けた検討を始めます。現在、事業者からの問合せに使用している地図は紙媒体を用いておりますが、これをデジタル地図に転換することにより、手続の迅速化と業務の効率化を目指してまいります。

次に番号飛びますが、取組の31、効果的な情報発信のための普及事業の見直しと改善に関連することです。文化財の標識柱や説明板を新設するときや、経年劣化により見えづらくなったものを更新する際には、より詳細な情報や画像をご覧いただけるよう、これからはQRコードを張りつけるなどし、情報発信の充実を努めてまいります。

このほか、市指定の文化財ではございませんが、松戸市の前身である旧松戸町の役場があった場所が、数々の資料を検討した結果明らかとなりましたので、市制施行80周年を記念し、旧松戸町役場の所在地付近に案内板を設置する予定でございます。

次に、美術館準備室では、こちらの表の取組8に関連します。文化財情報の整理、データベース化、公開に関連いたしまして、現在ポジフィルムで管理しております所蔵美術作品のデータをデジタル化し、昨年4月に開設したまつどデジタルミュージアムで公開することにより、デジタルミュージアムの拡充を図ってまいります。

戸定歴史館につきましては、取組の19に関連しまして、戸定邸保存活用計画の策定に着手いたします。今年度は計画の策定に係る現地調査と策定支援業務委託を行い、建造物、環境面、防災面の調査に並行いたしまして、戸定邸保存活用審議会での専門家の意見を頂戴しながら、6年度にわたる2か年で計画を作成しまして、令和7年4月の文化庁への提出を目指してまいります。

最後に博物館ですが、取組の21、施設修繕計画の実施並びに取組25、市立博物館の公開承



認施設化に関連いたしまして、博物館の老朽化対策に取り組んでまいります。

博物館は今年度開館30周年を迎えますことから、昨年度策定いたしました松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画に基づき、施設の長寿命化はもちろんのこと、インクルーシブデザインの導入など、多様な利用者に対応できるような施設への改修や、国宝や重要文化財を簡易な手続で借用できる公開承認施設を目指すため、令和6年度に予定しております空気調和設備などの全面的な改修に必要な各種の設計業務を進めてまいります。

以上、駆け足となりましたが、令和5年度の松戸市文化財保存活用地域計画に係る取組の一部を紹介させていただきましたが、計画に掲げた基本理念を実現するため、4つの基本方針に沿った38の取組を行うことによって、松戸ならではの価値や魅力を伝え、市民に郷土への愛着や誇りを感じていただけるような環境づくりに努め、文化財の保存と活用を推進してまいりたいと考えております。

報告は以上となります。

**長江委員長** ありがとうございます。

では、報告事項については以上となりますので、ご報告いただきました関係各署職員等の方々は退席ということになります。よろしく願いいたします。

(教育長等退席)

---

◎社会教育関係団体に対する補助金及び交付団体との意見交換について

**長江委員長** それでは、議事の進行のほうに戻らせていただきたいと思います。

次第の2にあります議事は、「社会教育関係団体に対する補助金及び交付団体との意見交換について」、事務局より説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

**社会教育課長** 例年の議題ではございますが、改めてご説明させていただきます。

まず、今回の会議でございますが、資料1-1から1-3までご説明した後、補助金の交付を受けていらっしゃいます社会教育関係団体の松戸市少年少女発明クラブと松戸市スカウト連絡協議会の方々にお越しいただいておりますので、委員の皆様と直接意見交換をしていただければと思っております。したがって、説明につきましては簡潔にご説明いたしますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

それでは説明させていただきます。

まず、社会教育関係団体に補助金を交付するに当たりましては、市の予算となりますので、

その決定につきましては市議会の議決を経るところでございますが、社会教育法第13条に「地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合は、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聞いて行わなければならない」という規定がございます。本日の議題は、同規定に基づき、委員の皆様のご意見を聴取するものでございます。

まず、補助金全体のスケジュールについてご説明します。

資料1-1をご覧ください。

全体の流れといたしましては、P D C Aサイクルの確立を目的とし、令和4年2月から取り組んでいるものでございます。従来は補助金の申請があった後、第1回社会教育委員会会議に前年度の補助金の確定、当年度の補助金の概算払いが終了した後に、委員の方々のご意見を頂戴しておりました。

現在は、まず事前評価として、2月頃新年度の事業計画、予算案に対するヒアリングを実施し、取りまとめたものに対して、2月から3月に実施される社会教育委員会会議にて意見をお伺いし、団体にフィードバックいたします。その後、令和5年度の申請をいただき、交付決定をした内容をこの社会教育委員会会議にご報告させていただきますとともに、事後評価として令和4年度の実績報告についても社会教育委員会会議にお諮りいたしまして、こちらも委員の皆様のご意見聴取を行わせていただきたいと思いますと思っております。これが本日になります。

それでは、各団体の申請内容と実績報告のご説明をいたします。

資料1-2が決算でございます。こちらの2ページ目をご覧ください。

令和4年度の実績報告でございます。もう一つの資料1-3が、令和5年度の申請内容として予算や計画の報告になります。

まず1団体目、松戸市P T A連絡協議会でございますが、市内の小・中学校のP T Aの連絡を密にし、P T Aの民主的な運営の研究と普及に取り組むほか、家庭、学校及び社会における教育の振興に協力する連合会で、特に今日の地域社会の重要課題である子どもの健全育成や安全・安心、家庭教育力の向上などの推進に関しては、学校、家庭、地域、行政をつなぐ絆として重要な役割を担っていただいている団体でございます。

令和4年度の実績報告です。収入は繰越金が119万970円、負担金が119万352円、市の補助金が54万円、事業参加費が11万9,280円、雑収入15円で、全体は304万617円でございます。

支出の部で、運営費等は割愛させていただきますが、私どもの補助対象事業として計上されるものは網掛けのところでございます。広報紙発行事業、研修会事業、音楽祭事業でございます。合算いたしまして総額で72万4,186円でございます。そのうち市の補助金の充当に

については54万円、残りの部分についてはほかの自主財源で賄ってございます。

続きまして、資料1-3の予算の1枚目をご覧ください。

令和5年度申請内容として、予算は収入の部において繰越金が123万3,034円、負担金が136万8,000円、市の補助金が54万円、事業参加費が56万円、東葛バレー大会参加費が26万円、県P研究大会参加費が9万円ということで、全体は405万1,034円でございます。

支出の部で、運営費等は割愛させていただきまして、補助対象事業として計上されるものは網掛けのところでございます。広報紙発行事業、研修会事業、音楽祭事業、バレーボール大会でございます。こちら合算いたしまして、総額で187万5,000円です。そのうち市の補助金の充当については54万円、残りの部分についてはほかの自主財源で賄う計画でございます。

次に、2番目の団体でございます。また1-2の資料に戻ります。

「小さな親切」運動松戸支部でございます。多年にわたって全国的に取り組まれております小さな親切運動の輪を広げ、明るい社会づくりに寄与することを目的とした団体で、特に緑と花のフェスティバル、市内一斉清掃など、多くの市民の皆様にご参加できる機会を提供するとともに、社会貢献活動にご尽力いただいている団体でございます。

令和4年の実績報告でございます。全体の収支の内訳といたしましては、法人会費が9万円、賛助会費が49万2,500円、市の補助金が8万円、助成金が10万円、雑収入が4円、前年度の繰越しが21万7,041円、合計して収入の部が97万9,545円となっております。

このうち支出の部で、事業の対象としましては、作文コンクールを毎年事業費として計上してございますので、こちらが対象となっております。29万2,707円でございます。具体的な実績といたしましては、応募総数、小学校6校17点、中学校12校825点で、うち入賞者が20名ということが結果としてございます。こちらにつきまして、作文集を発行して小・中学校関係団体等に配布をしているということでございます。

続きまして、また資料の1-3にまいります。予算でございます。

令和5年度申請内容として、予算は、収入の部において法人会費が7万2,000円、賛助会費が48万500円、市の補助金が8万円、助成金が10万円、前年度の繰越しが12万2,607円、収入の部の合計85万5,107円となっております。このうち支出の部で対象の事業は、作文コンクールで31万円でございます。

続きまして、次は3番目の団体、松戸史談会でございます。松戸市の市制施行10周年の記念事業として、昭和29年から昭和36年の間に松戸市史編纂の作業に取り組んだ際、ご協力いただいたメンバーが中心となって立ち上げた団体でございます。今日まで多年にわたって、松戸市

域の歴史、民俗などの調査研究を行うとともに、その成果を機関紙として発行するほか、研修会を開催するなど、市民の生涯学習活動の推進にご尽力をいただいている団体でございます。

令和4年度の実績報告です。全体の収支の内訳といたしましては、繰越金が18万6,628円、会費収入20万4,000円、市の補助金が8万円、報奨金が6万円、事業収入6万1,600円、寄附金収入19万1,592円、合計78万3,820円でございます。

これに対し、網掛けの事業費といたしましては、歴史散歩事業、史談発行事業、文化祭執行事業を合計して39万8,047円でございます。

また資料の1-3のほうにまいります。令和5年度申請内容として、収入は繰越金が33万4,262円、会費収入20万円、市の補助金が8万円、報奨金が6万円、事業収入7万円、寄附金収入が3万5,738円、計78万円でございます。

支出の事業費といたしましては、歴史散歩事業、史談発行事業、文化祭執行事業の合計59万5,000円になっております。詳細につきましては、さらに右の市の補助金の使途の内訳となっておりますが、補足で申し上げますと、文化祭の執行事業というのは、松戸の市民文化祭に毎年ご参加いただいております。その中で講演会を実施されています。そちらの開催経費となっております。

続きまして、4番目の団体、松戸市音楽協会でございます。松戸市域の音楽、文化を振興し、まちに潤いをもたらすことを目的として、合唱、声楽、オーケストラ、吹奏楽、和太鼓など、音楽分野ごとに連盟を組織したアマチュアの連合会で、毎年様々な分野の音楽祭やコンサートを開催し、音楽を通じた市民の生涯学習活動の普及等実践にご尽力いただいている団体でございます。

令和4年度の実績報告でございますが、収入の部、前年度繰越金が13万4,326円、事業収入が87万8,600円、参加者負担金が74万4,000円、主催団体負担金が84万3,301円、積立金引出が5万2,176円、会費収入が51万9,000円、雑収入が13円、市補助金が265万円、助成金収入が30万円で、合計して612万1,416円でございます。

これに対し、網掛けの事業費といたしましては、主催事業費と連盟事業費を合計して553万9,901円ございました。

続きまして、資料1-3のほうに移ります。令和5年度申請内容として、収支につきましては、収入の部、前年度繰越金が33万39円、事業収入が95万円、参加者負担金107万2,000円、主催団体負担金17万4,000円、会費収入54万5,000円、雑収入10円、市補助金265万円、助成

金収入30万円、合計602万1,049円でございます。

支出につきましては、事業費、網掛けのところが補助対象事業になります。主催事業費、連盟事業費を合計して518万6,000円でございます。

続きまして、また1-2の資料に戻ります。

松戸市少年少女発明クラブでございます。子どもたちに科学的な興味関心を追求できる場を提供し、工作活動を通じて、完成する喜びや科学的発想に基づく創造性豊かな人間形成の支援を行う団体でございます。

令和4年度の実績報告につきましては、収入の部、発明協会等助成金が27万円、市補助金が50万円、会費が31万円、寄付金が265万円、雑収入が3円、合計して373万3円でございます。

これに対して網掛けの事業につきましては、基本・アイデアコース事業費として142万8,544円ございました。また、当団体は拠点となる新松戸の子ども未来館という施設を持っておりまして、設備修繕積立として期末残高954万4,484円ございました。

資料1-3に移ります。令和5年度申請内容は、収入の部として発明協会助成金が27万円、市補助金が50万円、会費が40万円、寄付金が260万円、雑収入3円の合計377万3円。支出の網掛け事業費が146万8,503円でございます。また、別枠で修繕積立金として100万9,160円の積立てを予定してございます。

最後に6番目の団体、松戸市スカウト連絡協議会でございます。資料1-2に戻ります。

野外活動を中心としたプログラムで、人格、市民性、リーダーシップなどを習得させることで、青少年の健全育成に取り組む市内のボーイスカウト団・ガールスカウト団の友好を図り、その運動の発展に協力するとともに、市内の社会奉仕団体の活動に協力する連合会で、特に市内の桜まつり、こどもまつり、地域総合防災訓練、七草マラソンなど、さまざまな場面で社会奉仕活動にご尽力をいただいている団体でございます。

令和4年度の実績といたしましては、前年度繰越金6,792円、会費6万円、市補助金76万円、合計して82万6,792円ございました。

支出の網掛け事業費として、自然体験学級事業10万円、各団助成事業66万円の合計76万円ございました。

資料の1-3に移ります。令和5年度の申請内容は、前年度繰越金2万7,142円、会費6万円、市補助金76万円、合計84万7,142円。支出の網掛け事業費については、自然体験学級事業10万円、各団助成事業が66万円でございます。

事業報告及び申請内容につきましての説明は、以上でございます。

続いて、本日は5番目と6番目にご説明いたしました松戸市少年少女発明クラブと松戸市スカウト連絡協議会の方々がお越しいただいておりますので、各団体から委員の皆様にはプレゼン及び意見交換の時間をもちたいと思っております。

私からの説明は以上でございます。

**長江委員長** ありがとうございます。

それでは、各団体の方に大変長い間お待ちいただいているようなので、中に入らせていただきますので、お願いいたします。

(団体代表入室)

**長江委員長** 今日はお忙しい中来ていただきまして、ありがとうございます。

それでは順番に、松戸市少年少女発明クラブさんからご説明いただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

**松戸市少年少女発明クラブ事務局** ありがとうございます。よろしく願います。

私、松戸市少年少女発明クラブの今年事務局を行います仙田と申します。よろしくお願いいたします。

資料は3枚ありまして、一番最初に横の資料と、松戸市少年少女発明クラブという資料と、それからもう1枚が活動の趣旨とその発足と歩みとが書いてあります。こちらのほうから説明させていただきます。まず、今日の発足と歩みについてと、それから活動の趣旨や現在どういう活動をしているかをご理解していただければと思います。

まず、資料の発足と歩みについては、松戸市少年少女発明クラブは、昭和58年、1983年ということで、私は以前教師をやっており、ちょうど教師になりたての頃でございます。その6月11日に千葉県で3番目、全国で45番目のクラブとして設立されました。松戸の青少年会館の美術室を活動の原点としてスタートしました。土曜日の午後と日曜日の午前中に活動し、今現在も同じように活動しています。

平成3年度、クラブ員による2件の特許出願がなされ出願が続きました。作品の中には、松戸のテクノプラザのご支援により、製品化されたものがあります。中では万能乾電池ボックスというものは、一般製品化され、市内の各学校にも配布されました。

平成4年、土曜の基礎グループと日曜のアイデア工作グループに分けて指導を実施しまして、平成4年に青少年会館の美術室から松戸市の文化ホールに拠点を移りました。今の社会教育課がある場所です。その後、平成5年から10周年記念発行し、15年から20周年という記

念誌をCDでも出しました。

次に、平成17年に松戸市の松戸市立第一中学校の技術室へ、人数が増えてきたということで移転し、この間、伊勢丹会場に行ったりとか、エジソン展にも出展したりしております。

平成21年5月より、今現在使われています新松戸未来館にクラブ専用の松戸市少年少女発明クラブ室を開設しました。クラブ員は、OBをはじめ多くの指導員の下、今活動しております。

平成22年30周年、今年40周年の式典を行いました。このように歴史があり松戸市の指導員は主に学校の先生方や退職された先生方もおります。

活動の趣旨としては、松戸市少年少女発明クラブは、少年少女に科学的な興味関心を追求できる場を提供します。家庭や学校環境の制約を離れて、異なった年齢層の集団の中で、工作活動を通じ、完成する喜びを体得させます。科学的発想に基づいて生活態度を育成するとともに、創造性豊かな人間形成を図ることを目的としております。

教室の様子は、2枚目を見ていただくと、土曜日と日曜日に子どもたちがこのように活動しております。

左の工作用の設備工具は全国的にも松戸市が誇れるところだと思います。ぜひ活用し、参加していただくとうれしいなと思っております。

資料右下の優秀賞を取った「未来の科学の夢」については、発明協会で未来の科学の夢の絵画展があって、そこで賞をいただいた絵でございます。

そして、左側には日本の発明王ということで、在りし日の馬淵健一様の話が書いてあり、今現在、馬淵保様に名誉会長をやっていただいております。

歴代会長は昭和58年6月から初代が発明協会千葉県支部の渡辺健一様で、代々記載の方が務めており、昭和17年にハリマ産業の大久保敏行様のときに事務局が文化ホールになり、5代目の的場様のときに新松戸未来館になり、活動場所も安定し、実績も積み上げてまいりました。

実績のほうを見ていただきますと、平成14年から平成20年にものづくり体験教室全国大会で、平成22年から30年に全国チャレンジ創造コンテストに毎回出場し、賞をいただいております。昨年、一昨年とコロナでなくなりましたが、今年からまた全国の少年少女チャレンジ創造コンテストに取り組んでおります。

普段はどういうことをやっているかといいますと、活動計画をご覧ください。まず、開校式がありまして、その後一事例としては、鉛筆立てづくりなど。小学生が30名近くで4・5

年生が多いです。でも小学校2年生以下の子もやりたいと言って来る方もいて、お母さんと一緒に、子どもたちが喜んで工作をしています。

次の鍋敷きというのは何かというと、段ボールを六角形にしたり、組んだり、色を付けたりにして作ります。段ボールは普段使い捨てですが、それを何とか使おうじゃないかといった発想で子どもたちが作っています。芸術的にも見る角度で色が変わったり、いろいろ自分たちで工夫して作っています。

それから木工としては、整理箱を作ります。こちらも全て木工で釘は使わず、のこぎりで切ったり、カンナをかけたりし、作成しております。

8月に入り、今年は11月にチャレンジコンテストがありますので、それに向けた指導をしていきます。

10月は、実験教室として金属と磁石を使った実験、これも専任指導員がいろいろ考えて行っております。モーターを使った装置を組み立て、実験していきます。それから卓上の鍵掛や金属の板に名前を入れる板金名札といったものも制作しています。

次の非常灯は、小さなLEDで水の中に入れるとぴかっと光るんです。私たちが自前で工夫したものですから、特許は出していませんがオリジナルのものとなっています。

その他に、競技会とか行っております。モーターを使った走る車を作成して、サーキットをつくりまして、くるくるくるくる周るようになっていきます。そこで子どもたちが楽しみ、またつくりたいなという思いを持っていただき、また次回も参加していただくようになっております。

そして最後のほうになりますが、1月、2月頃になりますと、千葉県の少年少女発明クラブ作品展にも作品を展示しております。ここで賞を子どもたちが頂いております。

といったように、子どもたちが発明・工夫したものを展示したり、そして工夫して自分たちのアイデアを引き出していく。こういった体験は学校でなかなか得られないものかなと思ひ、この活動を続けております。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

**長江委員長** ありがとうございます。

一件一件ご意見をいただくのはお時間がかかりますので、先に2番目の松戸市スカウト連絡協議会様からプレゼンしていただきまして、後で私ども委員のほうから質問や意見をいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

**松戸市スカウト連絡協議会会長** 松戸市スカウト連絡協議会にて、会長をやらせていただいて



います古山といいます。今日は副会長の池田さんも一緒に同席しておりますので、よろしく  
お願いします。

まず、このスカウト連絡協議会って何をやっているのというところから、ちょっと簡単  
にお話をさせていただきます。スカウトの活動はどんなような活動をしているのかというこ  
とは、副会長の池田から報告をさせていただきますので、よろしくお願いします。

先に、資料はありませんが、スカウト連絡協議会というのはどういうものなのかを簡単  
に説明させていただきます。

発足が意外と早くて53年ぐらい前なんですけども、昭和45年の8月1日に発足をいたしま  
した。目的は、市内におけるスカウトの運動を推進し、その発展を図るという目的を持って、  
この協議会を発足してきております。

市内におけるスカウト運動、今松戸市内に9個の団がございます。松戸1団から松戸10団  
まであり、そのうち1個団がもう廃団し、現在9個団あります。それから、ガールスカウト  
が現在3個団ありまして、合計12個団あります。そこのスカウトたちの活動を支援しており  
まして、松戸市から頂いています補助金を各団のほうに活動の助成金という形で配分をして  
おります。

コロナで令和2年から約3年間、ほとんど活動が制限をされてしまい、毎年やっている事  
業が中止や延期という形がずっと続いておりまして、ただでさえスカウトがだんだん減少し  
ている中で団も非常に運営が苦しいという状況でした。子どもたちには大変申し訳ないな  
という思いで、リモートの会合をやったりしていたのが現状でございました。

スカウト運動を推進するというので、その目的を達成するために、年間で事業を幾つか  
行っています。まず最初に5月3日に松戸市のこどもまつりを21世紀の森のつどいの広場  
で行います。これはボーイスカウトがモンキーブリッジを、ガールスカウトはモンキーロープ  
という、目隠しでロープを伝わりながら目的地まで行く橋を作り、子どもたち体験してもら  
います。

特にモンキーブリッジは、丸太を組んでその上にロープをかけて、そのロープを渡るもの  
ですが、非常にスリルがあり、子どもたちが、小さい子も含め「僕もやる僕もやる」、「私  
もやる私もやる」でどんどん列も長くなっていき、非常に好評でございました。

それから、6月と10月の年2回、21世紀の森のつどいの広場で、スカウト連絡協議会が主  
催でやっております「みんなで遊ぼう自然体験学級」というイベントを実施しています。こ  
れはスカウトじゃなくて一般のスカウト年齢の子どもたち、小学校1年生から上は3年、4

年生ぐらいまでを対象に一般に募集をしまして、21世紀の森のつどいの広場でゲームをやります。ゲームは6コーナーぐらいあって、そこに大人のリーダーの皆さんが色々工夫を凝らしたゲームで子どもたちを遊ばせています。

大体午前中の9時から12時ぐらいまで行っていますが、これもまた大変好評で、ネットの申込みも1日で定員の250名ほどが埋まる状況となっています。この春は雨で中止になってしまいましたが、これまで約20回実施し、ずっと100名から300名と好評いただいています。

それから9月に三師会の応急救護訓練を実施しました。これは3つの医師会が主催をして、トリアージという考え方で、傷の軽い人から死亡まで、順番を付けて救護をする訓練や、担架を使った救護訓練を行っています。我々スカウトも参加し、スカウトの子どもたちにそれを経験させるというようなことでやっていますけども、残念ながらコロナの影響で3回中止になっています。去年はウェブで指導者や大人の人たちが指導を受けました。

次に8月の夏に、教育委員会の人たちと懇談会をやっています。いろんな、こうしてもらいたい、こういうことをやってもらいたいというような話を定期的に行っています。

その他11月に松戸市の総合防災訓練というのがあります。これはいろんなものを見学して知識を深めていくということで、見学や地震の体験などを行います。これらもコロナの影響でしばらく中止になっていますけども、今後再開されることを期待しています。

大体年間の行事としては、このような活動をしております。それでは次にガールスカウトの活動をご案内します。

**松戸市スカウト連絡協議会副会長** 今お話がありましたが、ボーイスカウトとガールスカウトはそれぞれ独立している団体で、生まれ育ちは同じなんだけれども、少し違う部分がございます。今日はガールスカウト話を私池田からさせていただきたいと思います。少しお時間頂戴します。

手作りパワーポイントです。（その場で手作りパネルを使って説明）ガールスカウトは基本少女と若い女性のための団体で、世界最大の社会教育団体ということになります。世界150の国・地域で、そして1,000万人が活動しています。松戸市には3つの拠点があって、スカウトは今現在23人、いろいろな年齢、少女の会員が23名、そしてそれを支える大人が44名という状況で活動しています。

ガールスカウトが大事にしている活動の柱、3つのこととしては、何となくボーイスカウト、ガールスカウトというとキャンプかなというようなイメージあるかなと思うんですけども、自然と共に、そして自己開発、そして人との交わりということが3つの柱になっていま

す。

その3つの柱、それぞれ少しずつ簡単ですけども、お話をさせていただきます。自然と共に今キャンプでというお話ししましたけども、今環境がとても変化している時代です。SDGsという言葉、そしてそういった内容についての学びと実践ということもしっかり活動の柱に入れながら、そして実際に野外へ出て行って、自然の中で身を置いてやっていくと。

なかなかコロナ禍でそういった活動がうまくいかない部分がありましたが、ようやく今年はできそう、外へ行けそうだとということで、リーダーともども非常に楽しみにしているところです。

江戸川クリーン大作戦なんかにも参加させていただいています。今年はスカウトと私と2人で参加してきたんですけども、私たちはそういった活動を目に見えるところでやっていきたい、やっていこうということをととても大事にしています。こどもまつり、松戸まつり、そういったところにも参加させていただいています。自然のことを考えること、とても重要に捉えております。

自己開発ということに関しては、主に学びについてです。いろいろな問題について、先ほど環境の問題もありましたけれども、それ以外の問題もたくさんあります。特にガールスカウトはよく言われるのは、どうして男の子は入れないのとか、ボーイスカウトは女の子が入れるのにどうしてということとはよく聞かれます。それに対してもやはりガールスカウト、しっかり考えて社会の問題に向き合っていきたいということ、そういったことを一生懸命やっているところです。とにかくまずは考えてみよう、やってみよう、どうすると自分たちの不都合や声が社会に届くかな、届け方どうしたらいいんだろう、そのときに考えることって何、というようなことを日々活動の中で考えて、そして実践しています。

それは子どもたちもですけども、大人もまたしかりで、大人もしっかり考えていく。子どもを支える大人が一生懸命考える大人でなければ、子どもたちと一緒に伸びていくことがなかなかできません。ですから、大人もしっかり学ぶ機会を得て、そして一緒に活動しています。その活動は何のためとなると、自分がとても社会の中で大事にされている、あとはそういう気持ちでまた他者を大事にしていくという、そういったことを育てていく、そういったことが大事だなということを感じているからです。

自信をつけ、自己肯定感を上げる。よく言われる言葉ですけど、そう簡単に自己肯定感なんて上がらないんです。ですけど、小さな努力、そして体験をしっかり積み重ねていくことで、それをまた見守る大人がしっかりそれを言葉にして伝えてあげることで、自己肯定感

をしっかりつけていけたらなと願っています。

次に人との交わりです。これはやはりガールスカウトで一番大事と思っていますが、みんな大事なんです。なんですけど、中でもやはり松戸市に特化して一つ大事だと思っているのは、ホワイトホース市との姉妹都市との交流です。実は昨日まで私の家に、ホワイトホースのガールガイドのリーダーが滞在、ホームステイしておりました。個人的な旅行だったんですが、ずっと海外からの行き来ができませんでしたので、どんなふうに再開させたらいいというふうな含みもあり、ちょっと個人的な旅行の中でコミュニケーションをとりに来てくれていました。

難しいことはいっぱいありますけれども、3年間の間に環境が変わってしまいました。そして本来だったら3年前に行けるはずだった子、それから受け入れることができたはずだった子たちができなくなってしまっておりました。本当にこの3年間というのは大きかったと、子どもたちにとっての3年間、大人にとってはあつという感じだったかもしれませんが、子どもにとっての3年間は大きかったというふうに改めて感じるころなんですけど、そういったことを中心に、もう40年この交流を続けておりますので、これからも続けていくために、何とか大人が努力できたらなということを感じています。

ここに参加する子どもたち、行く前にはうんと研修をします。そして不安もいっぱいあるんですけど、しっかり研修することで、行って実りをたくさん得て帰ってくるという体験、これは毎年できることではないんですが、たくさんの方の力、ご協力を得てこれからも続けていきたい大事な活動として考えています。

異年齢の人たちといろいろな交流をすること、それから親からではない人たちに褒めていただく体験をすること、それから一緒に何かを小さな子たちとやるという体験、こういったことを日々積み重ねていくことで、いろいろな経験、体験が力になっていくと私たち信じて、一生懸命やっているところです。以上です。

**長江委員長** 2つの団体の方々に直接プレゼンしていただいてお話を伺いましたが、ご質問とかご意見とか、感想でも結構ですから、お願いできればなというふうに思います。いかがでしょうか。

副委員長、よろしく申し上げます。

**奈賀副委員長** 奈賀綾子です、よろしく申し上げます。

両方聞かせていただいて、すばらしい活動だと思いました。私、新松戸に住んでいて、子どもは2人とも大きくなってしまったので、会を教えてあげればよかったなと思いました。

スポーツは沢山ありますが、なかなか科学などの分野は、興味を持っている人はいっぱいいるんだけど、どこへ行けばいいかわからないという部分が多いのかなと。私も今幼稚園で教員をやっていて、スポーツクラブはいっぱいありますが、こういう分野はなかなか無いので、もっと広がっていけばいいのかなと。

**松戸市少年少女発明クラブ事務局** そうなんですよ。だからとにかくこういうところあるんだよということをもっと広めたいなと思います。

今年は松戸まつりがあると思います。そちらのほうにも参加しようと思っています。そこでも広報していこうと考えてます。松戸にこういうところがあるんだというところをもっと多く知っていただいて、子どもたちが活躍してくれればいいなと思っています。

学校では本当に得られない体験ができると思います。指導員の先生も、学校の先生を皆さん体験しておりますので、子どもたちのアイデアを引き出そうという工夫もしております。アイデアコースの子たちは、去年最初、箱を作ったんです。そしたら、今度はその引き出しを作りたいと。小学校5年生の子ですけども、自分でアイデアコースに入って作りたいと言って作っていました。そういうふうにとんどんやっております。

それから、中学生なんかは、去年小学校6年生の子だったのが中学生になって、3×3の9個のキューブというのがあるんですが、それを今度はもっと4×4にしてもっと大きくしちゃったんです。その後色を付けて置き物にしたりとか、だんだん子どもたちの発想も豊かになってきています。

千葉県では千葉市の「きぼーる」という施設が中心になって、そこでも千葉市の理科の先生方一生懸命活動しています。なので松戸と千葉の子は結構グレード高いんですよ。子どもたちをもっと引き上げたいなと思っています。

**長江委員長** 他にございますでしょうか。

安達委員、よろしく申し上げます。

**安達委員** お話を聞かせていただいてありがとうございました。子どもたちがいろんな意味で学びの場があって、それを支えてくださっている大人の方がいて、これが歴史もあって、大変すてきななと思いました。

できれば継続して、形が変わっても継続して子どものためにもなって、そしてやっていらっしゃる皆さんのためにもつながっていくのかなと思いました。

ただ、参加するお子さんもそうですし、あとお手伝いに参加される方も含めて、人の減ってきてあると思って、自分が今こども食堂をやっています、そこに例えばチラシとか何か置

いていただければ、来てくれる子どもたちにもお渡しできるかなというふうに思いました。

あと、うちの娘がもう二十代後半ですけれども、小学生の頃にガールスカウトに入っていて、すごくその頃のことを楽しく今でも話してくれます。ひもの結び方がこうだったんだとか、テントの立て方がこうだったんだとか、大人になってからもすごく楽しい思い出だったということをいまだに話してくれるので、大変お世話になったなというふうに思いながらお話を伺っておりました。ありがとうございます。

**長江委員長** 他にございますか。大成委員。

**大成委員** 2つの発表、すごく興味深く聞かせていただきました。私は聖徳大学で、専門は美術ですけど、児童文化コースとあって、長江先生もそうですけれども、子どもの遊びや文化を勉強しながら、先生や保育士になるような学生を見ているんですけども、やはり今ものづくりとか野外活動とか環境とか、すごく大切なキーワードがたくさんあって、本当に共感する部分がたくさんあるなと思いました。

あと、科学と芸術もかつて戸定邸でやっていたときに初めて拝見して、こんな素晴らしいことをやっているグループがあるんだと思ひまして、そのときから気にかけていました。

今はものづくりということで、聖徳大学の場合は女子大ですけど、やはり道具を使って何かつくっているという経験というのは非常に少ないんですね。極端な事例ですが、先週ぐらいはホチキスの針見たことないという子がいて、道具を使えていない、経験が少ないんだなと思いました。この工作クラブのタイトルが少年少女というのがすごくいいなと思って、女の子の割合ってどれぐらいなんですか。

**松戸市少年少女発明クラブ事務局** 40%近くはおります。

**大成委員** そんなにいらっしゃるんですか。女の子に道具を使う経験とか、男の子もやはりこういう経験が必要なんでしょうけど、男女問わずそういう子どものときに手を動かして。

**松戸市少年少女発明クラブ事務局** 女の子も上手ですよ。今中学生の子言ったんですけど、女の子なんですよ。

**大成委員** 分かりました。一度覚えると女の子はすごく上手ですよ。なので、そういう経験が必要かなと思うので、そういう場があるということがすごくいいかなと思いました。

それからあと、今STEM教育とあって非常に教育熱心な親とかは、そういうフレーズで目を向けてくれるというようなこともあるんじゃないかなというふうに思うんですね。なので、より大人の方には、そういった周知もあるかなと。

あと資料の写真見たら、様々な工具があるのがとてもいいなと思って、こういうものって

なかなか触れる機会がないと思うんですよ。図工の時間だけでは全然足らなくて、素晴らしい活動だと思うので、ぜひ頑張ってください。

野外活動の方も本当に大事だと思うので。授業の中に野外活動論というのがあるんですよ。そこでもテントの立て方をやったりまき割りやったり、キャンプファイアの火を着けたりとか、そういうことも実際にやる授業があるんですけど、ぜひ大切な活動だなと思うので、頑張ってください。

**大野委員** 大野と申します。本当に長年にわたり子どもたちの教育活動にご尽力されてありがとうございます。ここ数年コロナもあったんですけども、コロナの前から子どもたちが本当に体験が足りない、体験不足だというのはずっと言われていて、私、学校現場にいますけれども、それは非常に感じます。あらゆる場面で、例えば前だったら同じことを言っても通用したけれども、もう今は本当に経験していない子どもたちだと、その場面が思い浮かばなかったり、例えばそれが、別に日常生活ということじゃなくて、学習にも。

例えば国語でお話があったとすると、そのお話の中身が昔の子どもは見えていたけども、その情景が湧いたけども、今は湧かない、経験がないから。何のこと言っているのというのがすごく多いのと、体験が足りないから学校教育での体験をというふうに言われていますけど、まさにこの皆さんがやられているのは、学校以上に素晴らしい活動だなというふうに思います。

学校でもクラブ活動とかそういう活動はあるんですけども、年々回数が減ってきたり、なかなか教科書が厚くなるとそっちのほうに注力しちゃったりするので、そういうのもやりなさいとは言われながら、減ってきているなというのが現状です。

クラブ活動の話をしましたけども、でも大体どこの学校にも理科クラブとか実験クラブとかというのはあって、結構人気ですね。やはり子どもたち好きなんだな。だからこういう活動があるというのは本当に素晴らしいと思います。指導する教員もなかなか、今若手が多いので難しいんですけど。

**松戸市少年少女発明クラブ事務局** 見に来ていただいていいと思うんです。私たちみんな経験しているんです、教師ですから。ですから、子どもたちの発想をこういうふうにと引き出せるんだな。だから本当でしたら未来館に来ていただいて、学校の先生方見ていいですよと言いたいです。そして、ぜひ松戸市の教育の中で理科をもっと発想を豊かにした子たちを育ててくれたほうがいいなと。

ですから、そういう若い先生方も体験の場所というのも僕は持っているんじゃないかなと

思います。やはり学校と連携でやっていくのが子どもたちを育てることに繋がると私は感じますね。そういう場所があるので、活用していったほうがいいかなと。

以上です、勝手にいろいろ意見して申し訳ございません。

**大野委員** いえいえ、先生方もネタに苦労しているし、ぜひ見せていただくと本当によく分かるだろうし、勉強になるかなと思います。

スカウトさんの方も、私の学校にもスカウトに入っているか子どもたちがいるので、いい経験をしているなといつも思っています。スカウトというとキャンプのイメージがすごく強かったのですが、国際交流は具体的には行ってどんなことをされているのでしょうか。

**松戸市スカウト連絡協議会会長** 向こうから来るときもそうですけど、こっちから行くのも全部ホームステイで、向こうのご家庭に泊まりにいくという形でやっています。あと、オーストラリアですとかなり広大な野営場というのを持っているんですね。そこでキャンプ生活を2泊、3泊とかして、キャンプ生活をします。

とにかくキャンプをすることが一番いろいろな技術を覚えます。キャンプ3日ぐらいやれば、もう火の起こし方もご飯の作り方から何から、全部覚えていきます。子どもはもう早いからです。

やはり体験をすることですよね。聞いて学ぶこともあるでしょうけど、プラス自分で実際にそれを体験してみる。してることによって、体で覚えてくるというんですね。それを忘れないんですよね。やはり自分の体に覚えさせるということが、私たちはまず第一にということで、必ず野外へ連れていくというふうな活動をしています。

**長江委員長** ほかにございますか。米原委員。

**米原委員** 2つのグループの方々、本当に、まさに社会教育、学校教育ではなく、学校と家庭をベースにした子どもたちが社会で学んでいくという活動にご尽力いただいているということ、改めて本当に感銘いたしました。ありがとうございました。

そこでまず1点目として、多分どちらの活動も会員参加者の確保に多分苦労されている。こういった場のやり取りでチラシを置くですとか、ひょっとしたら学校との連携というようなアイデアが出てきて共有できるわけですので、ぜひよりこういった機会を活用いただいて、当然これ社会教育委員会から補助が出ているということで、お墨付きがあるわけですので、それを十二分に活用、そういう錦の御旗をご活用いただいて、より参加者が増えて、よりいい経験ができる子どもを増やしていければいいなというふうに思いました。

あともう1点なのですけれども、この社会教育という観点ですと、特にやはり小・中学生



が参加で、そのOB、高校生になったりもう少し大きくなった人たちがどのように関わっている、またその理念とか技術などを生かしているようなことがもしありましたら、それぞれお聞かせいただけますでしょうか。

**松戸市少年少女発明クラブ事務局** やはりOBの方たちは、関係した仕事をしている人が多いです。

**米原委員** ものづくりの仕事でしょうか。

**松戸市少年少女発明クラブ事務局** はい。それから、クラブへお手伝いに来てくれたりもします。

**米原委員** 発明クラブの指導者というのか、アシスタント的な役割としてでしょうか。

**松戸市少年少女発明クラブ事務局** はい。ですのでそういった形で繋げていきたいなと思っております。やはり後に繋げていくのが理想ですね。子どもたちが将来会社のほうでも同じような仕事をして、発明クラブにも来てくれるし、そういう繋がりがあります。

**米原委員** ぜひその繋がりもアピールしていただくと、その後に活きると思います。まだ参加したことのない方やその保護者には非常にアピールになるかと思います。

**松戸市スカウト連絡協議会副会長** それではガールスカウトのお話を少しさせていただきます。千葉県では、ちょっと珍しいのですが、市川市にある私立の国府台女学院にガールスカウトがありまして、今は休団中なんですけど、学校団ということで一つ組織がございました。それは部活の顧問の先生がリーダー研修を受けて、そして活動を学校の中で学校単位として行っていたということで、その顧問の先生が異動もしくはお辞めになってしまって継続ができなくなってしまったということですが、実績としてございました。

学校の中でどうやっていくかということに関しては、学校の中でやれること、やり方は参考にできるものがあるなと思います。あとは東南アジアに関しては、比較的海外でも学校とのやり取りが大きいというか、学校の中でそもそも活動をしているというようなことも聞いております。

ガールスカウトは18歳、高校生年代までが少女会員として活動していきます。その後は資格研修を受けた後、ヤングリーダーとしてその後、今度は指導者になります。実は少女が頑張ることもうんと大事なんですけど、本当の醍醐味は指導者になったときです。大人の目線で子どもたちを、自分たちが受けてきた体験や教育を振り返りながら、あ、こんなふうにするんだ、こんなことが大事だったんだというようなことを改めて追体験しながら、また自分が現場に立っていく。

そしてまた、そのお姉さんたちがスカウトたちのロールモデルになっていくということが大事だなと感じています。全員が全員残るわけではないですが、やはりヤング、大学生、あるいは就職したてのお姉さんたちというのは、本当にいてくれると嬉しいのですが、まさにその年代は忙しく、その後の子育て世代になるともっとまた忙しく、一旦離れてしまうというところが現状ではあります。

ただ、お子さんが生まれた後、また戻ってきてくれるというようなこともありますので、そういったところに力を入れながらまた頑張っているというのが現状でございます。

**米原委員** どうもありがとうございました。その循環のお話を聞くと、本当に大事な活動で、小・中学生だけじゃなくて、その上が下を見るというようなことで、社会教育としてそれぞれ大事な活動だと分かりました。ありがとうございます。

**松戸市スカウト連絡協議会会長** ボーイはまさにそれを実践してやっています。ボーイ年代になると、小学校の6年生から中学の3年生までがボーイの年代なのですけれども、その中から1級のスカウト、要するにスキルをたくさん持っているスカウトが、下級のカブスカウトの隊に行って、そのスカウトたちに教える。要するに少年が少年を指導して教えるというシステムをとっています。

大学生のローバースカウトは、全部自分のその下のカブやボーイ、ベンチャーの副長・指導者として派遣しております。子どもたちもその先輩を見て、僕もああいう先輩になりたいなというように思うんですね。その効果を狙ってそういったシステムでやっています。

**長江委員長** ありがとうございます。

皆さん、ほかによろしいでしょうか。

2つの団体の方々に普段書類だとなかなか伝わらなかったもので、特に子どもの育成という点から言うとすばらしい団体の人たちと大変貴重な意見交換とさせていただいたことが本当にありがたいことだなと思っております。

個人的な話ですが、自分は松戸育ちでございまして、先ほどのお話のところでは、例えば中学校で科学クラブに入っております、当時女の子は少なかったですけど、部長もさせていただきながら実験をしていました。最近の授業では、代表者が実験をして、一人一人子どもが実験をできないような教育環境もあるというようなことを伺うこと、ますます実体験の少なさというのは、生き抜く力がすごく育ちにくい環境ですよ。言葉では理解しているけれど、実際にできないという。失敗をおそれないというか、生き抜く力が育ちにくい。

また、ガールとボーイの方々ですが、21世紀の森と広場の裏側の100年の伝統の高木小学

校が私の出た小学校なのですが、あそこは里山で、下が田んぼだったんです。

そこで昔の昭和の小学生として、実際に自分たちがそこで行ってみると、いろんな体験をして遊びをして、野外活動を普通に行っているという、そういう中で育った世代にとっては当たり前なのが、今の子どもたちにとっては当たり前ではなく、親の世代からしてもかなり厳しいという時代になってしまっているのです、今日お話の中にあるようなものづくり、自分の頭で考えたり、失敗を恐れずに様々なことにチャレンジしていく力、生き抜く力、野外活動のすばらしさということ、本当に会員の方々だけではなく、2つの団体がそれぞれ、メンバーも育ち、ビジターも受け入れていただくような、そういうチャンスを松戸の子どもたちに与えていただいているということがつくづく分かりましたので、とてもありがたいと思います。

ただ補助金を交付するという事だけの議論ではなく、肌感覚でお話を伺えたことは、社会教育委員会議としては貴重な体験だったというふうに思います。ありがとうございました。

それでは、本日の議題は全て終了いたしましたので、これにて進行を事務局の方のほうにお返ししたいと思います。

**事務局** では、本日の議題全て終了いたしましたので、傍聴者の方ご退席をお願いいたします。

(傍聴人退室)

---

◎閉 会

**事務局** では、以上をもちまして、令和5年度第1回社会教育委員会議を終了いたします。

お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。